

(1) 大分類別の漂着ごみの状況

回収した漂着物のうち、「自然物」を除いた 9 つの大分類(人工物)について、個数、重量、容積ごとに各地点の組成を取りまとめた。なお、今年度は、全ての地点で「天然繊維、皮」が、漂着 5(伊方越鯛ノ浦海岸)で「電化製品、電子機器」が確認されなかった。

1) 大分類別の漂着ごみの個数(個/m²)

回収した漂着物のうち、自然物を除く人工物の 1m²あたりの個数(個/m²)は、表 3-1-3、図 3-1-3 に示すとおりである。なお、個数には破片状のものは含まれていない。

漂着ごみの個数が最も多かった地点は、漂着 7(船越海岸)で、個数は 4.45 個/m²、次いで漂着 5 が 2.45 個/m²であった。

分類別にみると各地点とも「プラスチック」が最も多く、次いで漂着 1(大三島大見地区海岸)では「ガラス、陶器」が、漂着 4(高野川海岸)では「金属」が、漂着 5 では「木(木材等)」が、漂着 7 では「ゴム」が多かった。

表 3-1-3 各地点における漂着ごみの 1m²あたりの個数(個/m²)

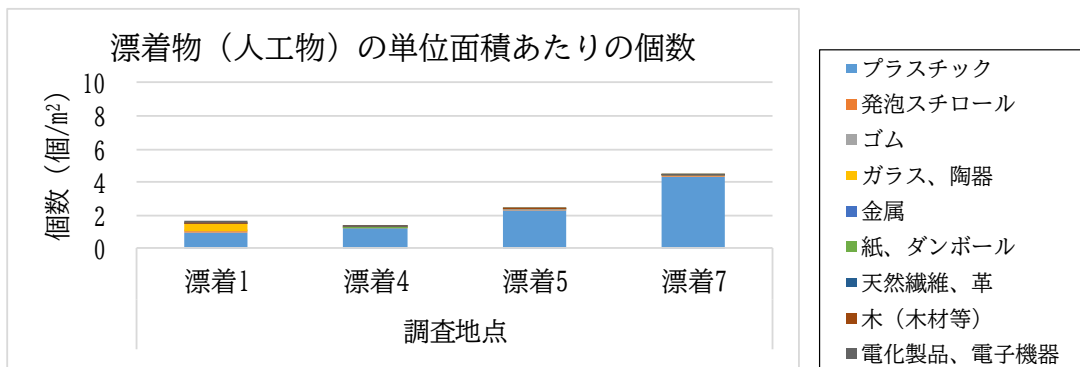
単位：個/m²

大分類	調査地点				総計
	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7	
プラスチック	0.99	1.22	2.28	4.36	8.86
発泡スチロール	0.02	0.00	0.04	0.02	0.09
ゴム	0.00	0.01	0.02	0.03	0.07
ガラス、陶器	0.50	0.02	0.01	0.00	0.53
金属	0.02	0.06	0.02	0.01	0.11
紙、ダンボール	0.00	0.00	0.01	0.00	0.02
天然繊維、革	-	-	-	-	-
木(木材等)	0.01	0.04	0.06	0.01	0.12
電化製品、電子機器	0.00	0.01	-	0.00	0.01
総計	1.55	1.36	2.45	4.45	9.81

※1 各地点の上位2種を太字で示し、最上位は下線を引いた。

※2 0.00は0.01個未満を示す。

※3 破片状のものは含まれていない。



漂着1：大三島大見地区海岸

漂着4：高野川海岸

漂着5：伊方越鯛ノ浦海岸

漂着7：船越海岸

図 3-1-3 各地点における漂着ごみの 1m²あたりの個数(個/m²)

2) 大分類別の漂着ごみの重量 (g/m²)

回収した漂着物のうち、自然物を除く人工物の 1m² あたりの重量(g/m²)は、表 3-1-4、図 3-1-4 に示すとおりである。

漂着ごみの重量が最も大きかった地点は、漂着 7 で重量は 223.97g/m²、次いで漂着 1 で重量は 81.40g/m² であった。

分類別にみると漂着 1 では「ガラス・陶器」が、漂着 4 と漂着 7 では「プラスチック」が最も大きく、次いで「木(木材等)」であった。漂着 5 では「木(木材等)」が最も大きく、次いで「プラスチック」であった。

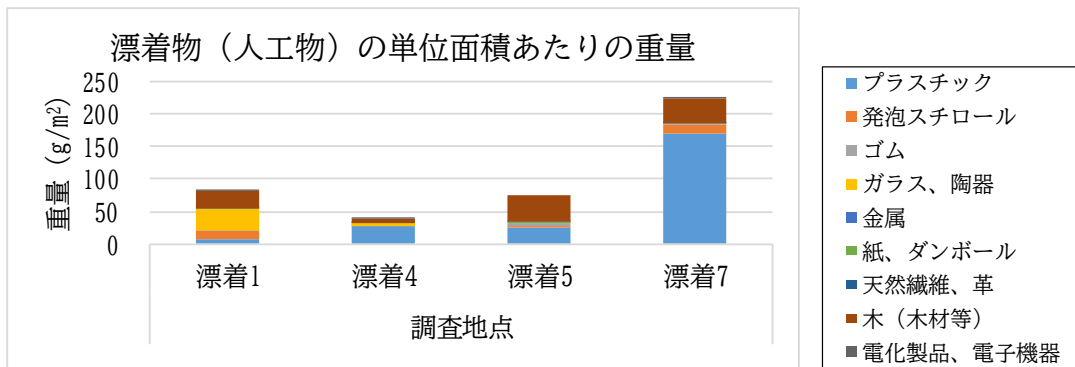
表 3-1-4 各地点における漂着ごみの 1m² あたりの重量 (g/m²)

単位：g/m²

大分類	調査地点				総計
	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7	
プラスチック	8.41	27.77	26.09	169.60	231.87
発泡スチロール	12.85	0.10	2.59	12.86	28.40
ゴム	0.77	0.38	2.73	2.62	6.51
ガラス、陶器	32.86	3.16	1.69	0.27	37.98
金属	0.54	1.85	0.71	0.12	3.22
紙、ダンボール	0.22	0.03	0.22	0.03	0.51
天然繊維、革	-	-	-	-	-
木(木材等)	25.56	6.79	40.03	38.44	110.82
電化製品、電子機器	0.17	0.05	-	0.04	0.27
総計	81.40	40.15	74.05	223.97	419.58

※1 各地点の上位2種を太字で示し、最上位は下線を引いた。

※2 0.00は0.01g未満を示す。



漂着1：大三島大見地区海岸

漂着4：高野川海岸

漂着5：伊方越鯛ノ浦海岸

漂着7：船越海岸

図 3-1-4 各地点における漂着ごみの 1m² あたりの重量 (g/m²)

3) 大分類別の漂着ごみの容積(L/m²)

回収した漂着物のうち、自然物を除く人工物の1m²あたりの容積(L/m²)は、表3-1-5、図3-1-5に示すとおりである。

漂着ごみの容積が最も大きかった地点は、漂着7で容積は4.10L/m²、次いで漂着5で容積は1.61L/m²であった。

分類別にみると漂着1では「発泡スチロール」が最も大きく、次いで「プラスチック」であった。漂着4と漂着7では「プラスチック」が最も大きく、次いで漂着4では「木(木材等)」が、漂着7では「発泡スチロール」が大きかった。漂着5では「木(木材等)」が最も大きく、次いで「プラスチック」であった。

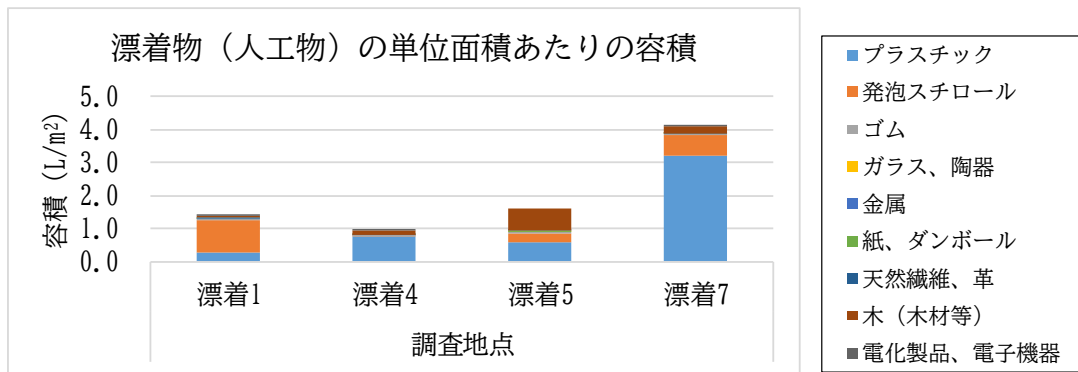
表 3-1-5 各地点における漂着ごみの1m²あたりの容積(L/m²)

単位：L/m²

大分類	調査地点				総計
	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7	
プラスチック	0.26	0.77	0.58	3.18	4.80
発泡スチロール	1.00	0.01	0.28	0.62	1.91
ゴム	0.01	0.01	0.03	0.05	0.09
ガラス、陶器	0.02	0.01	0.01	0.00	0.04
金属	0.01	0.03	0.02	0.00	0.06
紙、ダンボール	0.01	0.00	0.01	0.00	0.02
天然繊維、革	-	-	-	-	-
木(木材等)	0.05	0.12	0.68	0.23	1.09
電化製品、電子機器	0.00	0.00	-	0.00	0.00
総計	1.37	0.94	1.61	4.10	8.02

※1 各地点の上位2種を太字で示し、最上位は下線を引いた。

※2 0.00は0.01L未満を示す。



漂着1：大三島大見地区海岸

漂着4：高野川海岸

漂着5：伊方越鯛ノ浦海岸

漂着7：船越海岸

図 3-1-5 各地点における漂着ごみの1m²あたりの容積(L/m²)

(2) プラ分類別の漂着ごみの状況

大分類の「プラスチック」と「発泡スチロール」については、プラ分類として「海域由来」、「製品」、「容器包装」、「その他」の4つに大別し、個数、重量、容積ごとに各地点の組成を取りまとめた。なお、各項目の内訳について、分類に無いもので多数見つかったものは「その他(大分類)」としてまとめて記載した。

1) プラ分類別の割合(個数)

個数における漂着ごみ(プラスチック、発泡スチロール)のプラ分類別の割合は、表3-1-6、図3-1-6に示すとおりである。

いずれの地点も「海域由来」の割合が52~79%と高く、次いで「容器包装」が18~37%であった。

なお、「その他」については、破片類(「シートや袋の破片」や「硬質プラスチック破片」、「発泡スチロールの破片」)に関して、重量や容積は計測するが、個数は計測しないため、ほとんど確認されない結果となっている。

表 3-1-6 漂着ごみのプラ分類別個数(1000m²あたり)と割合

単位：個/1000m²

プラ分類	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7
海域由来	519 (52)	843 (69)	1835 (79)	2291 (52)
製品	125 (12)	122 (10)	70 (3)	458 (10)
容器包装	336 (33)	261 (21)	413 (18)	1612 (37)
その他	25 (2)	—	2 (0)	20 (0)
合計	1005	1226	2321	4380

※1 ()内は割合(%)を示す。
 ※2 割合の0は0.5%未満を示す。
 ※3 各地点の10%以上を占める上位2種を太字で示し、最上位は下線を引いた。
 ※4 破片状のものは含まれていない。

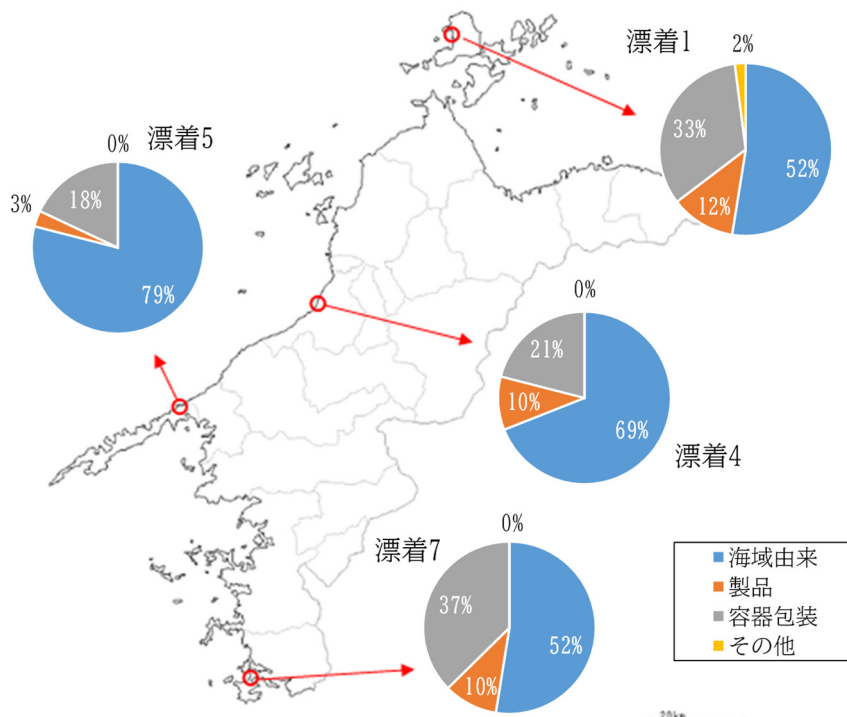


図 3-1-6 漂着ごみのプラ分類別の割合(個数)

a) 「海域由来」の内訳(個数)

個数における「海域由来」の内訳は、表3-1-7、図3-1-7に示すとおりである。

漂着1(大三島大見地区海岸)と漂着4(高野川海岸)では、「カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)」の割合がそれぞれ60%、53%と最も高く、次いで「カキ養殖用パイプ(長さ10~20cm)」がそれぞれ24%、37%であった。漂着5(伊方越鯛ノ浦海岸)及び漂着7(船越海岸)では、「カキ養殖用パイプ(長さ10~20cm)」の割合がそれぞれ57%、69%と最も高く、次いで「カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)」がそれぞれ38%、18%であった。

表3-1-7 漂着ごみの「海域由来」の個数(1000m²あたり)と割合

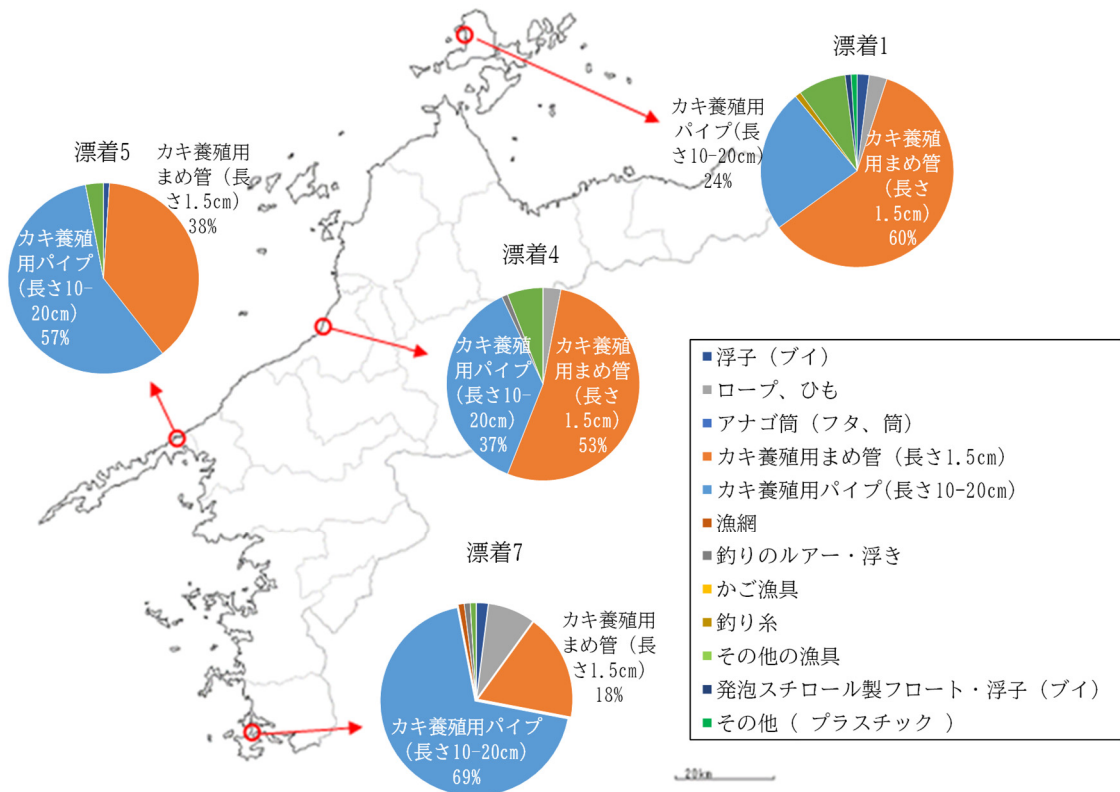
単位: 個/1000m²

	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7
浮子(ブイ)	9 (2)	2 (0)	12 (1)	38 (2)
ロープ、ひも	15 (3)	22 (3)	1 (0)	180 (8)
アナゴ筒(フタ、筒)	—	—	1 (0)	7 (0)
カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)	311 (60)	444 (53)	704 (38)	413 (18)
カキ養殖用パイプ(長さ10-20cm)	124 (24)	313 (37)	1046 (57)	1582 (69)
漁網	—	1 (0)	—	12 (1)
釣りのルアー・浮き	—	6 (1)	8 (0)	14 (1)
かご漁具	—	—	—	—
釣り糸	6 (1)	1 (0)	1 (0)	—
その他の漁具	40 (8)	52 (6)	58 (3)	29 (1)
発泡スチロール製フロート・浮子(ブイ)	5 (1)	—	1 (0)	10 (0)
その他(プラスチック)	8 (1)	2 (0)	5 (0)	5 (0)
合計	519	843	1835	2291

※1 ()内は割合(%)を示す。

※2 割合の0は0.5%未満を示す。

※3 各地点の10%以上を占める上位2種を**太字**で示し、最上位は下線を引いた。



※10%以上を占めるものは項目名と割合を記載した。

図3-1-7 漂着ごみの「海域由来」の内訳(個数)

b) 「製品」の内訳(個数)

個数における「製品」の内訳は、表3-1-8、図3-1-8に示すとおりである。

漂着1及び漂着4では、「その他(プラスチック)」の割合がそれぞれ35%、37%と最も高く、次いで、漂着1では「生活雑貨(歯ブラシ等)」及び「たばこ吸殻(フィルター)」がそれぞれ20%、19%と同程度であり、漂着4では「ストロー」が29%であった。漂着5では、「ストロー」の割合が26%と最も高く、次いで、「生活雑貨(歯ブラシ等)」が21%であった。漂着7では、「テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)」の割合が36%と最も高く、次いで「ストロー」が19%であった。

漂着1及び漂着4の「その他(プラスチック)」では、「ロープ、網(漁具以外)」が半数以上を占めていた。

表3-1-8 漂着ごみの「製品」の個数(1000m²あたり)と割合

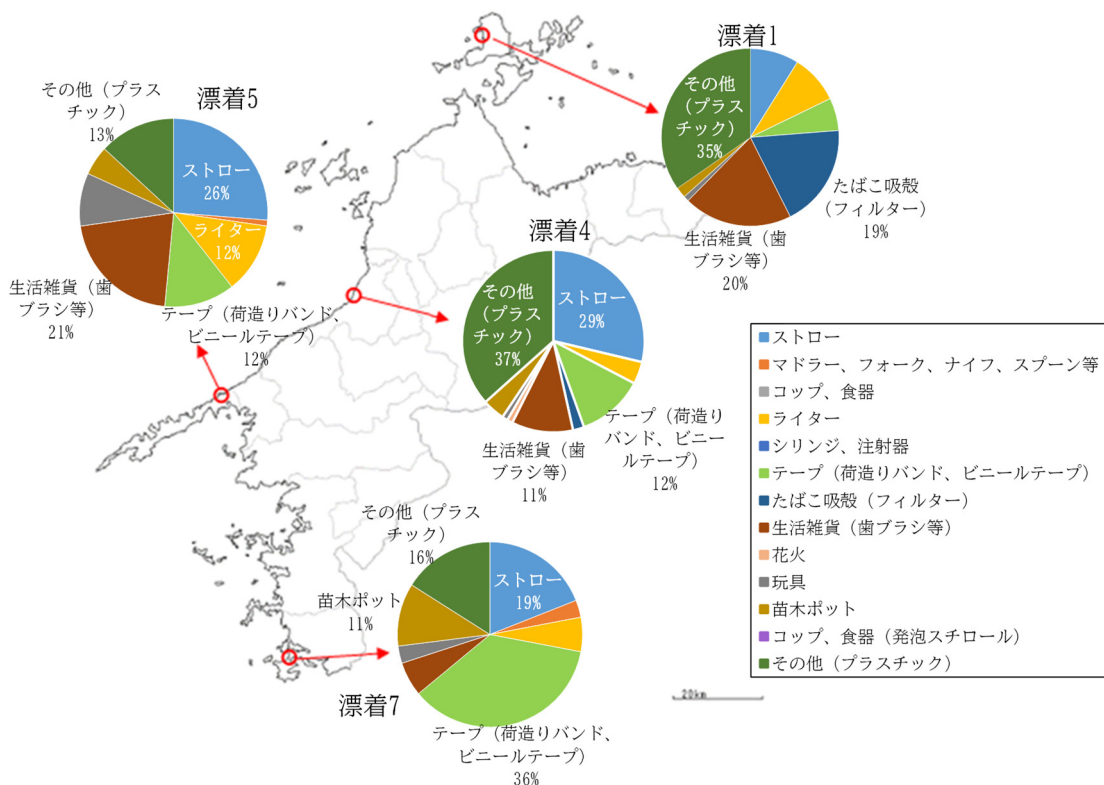
単位：個/1000m²

	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7
ストロー	11 (9)	36 (29)	18 (26)	87 (19)
マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	—	—	1 (1)	13 (3)
コップ、食器	—	—	—	—
ライター	11 (9)	4 (4)	9 (12)	29 (6)
シリンジ、注射器	—	—	—	—
テープ (荷造りバンド、ビニールテープ)	8 (6)	15 (12)	9 (12)	166 (36)
たばこ吸殻 (フィルター)	23 (19)	2 (2)	—	—
生活雑貨 (歯ブラシ等)	25 (20)	13 (11)	15 (21)	26 (6)
花火	—	1 (1)	—	—
玩具	2 (1)	1 (1)	6 (9)	12 (3)
苗木ポット	3 (2)	4 (4)	4 (5)	49 (11)
コップ、食器 (発泡スチロール)	—	—	—	—
その他 (プラスチック)	43 (35)	45 (37)	9 (13)	75 (16)
合計	125	122	70	458

※1 ()内は割合(%)を示す。

※2 割合の0は0.5%未満を示す。

※3 各地点の10%以上を占める上位2種を太字で示し、最上位は下線を引いた。



※10%以上を占めるものは項目名と割合を記載した。

図3-1-8 漂着ごみの「製品」の内訳(個数)

c) 「容器包装」の内訳(個数)

個数における「容器包装」の内訳は、表3-1-9、図3-1-9に示すとおりである。

いずれの地点も「ボトルのキャップ、ふた」の割合が最も高く、29%~56%であった。次いで、漂着1と漂着7では「その他プラスチック袋」がそれぞれ26%、17%、漂着4では「食品容器」が18%、漂着5では「飲料用(ペットボトル)<1L」が26%であった。

表 3-1-9 漂着ごみの「容器包装」の個数(1000m²あたり)と割合

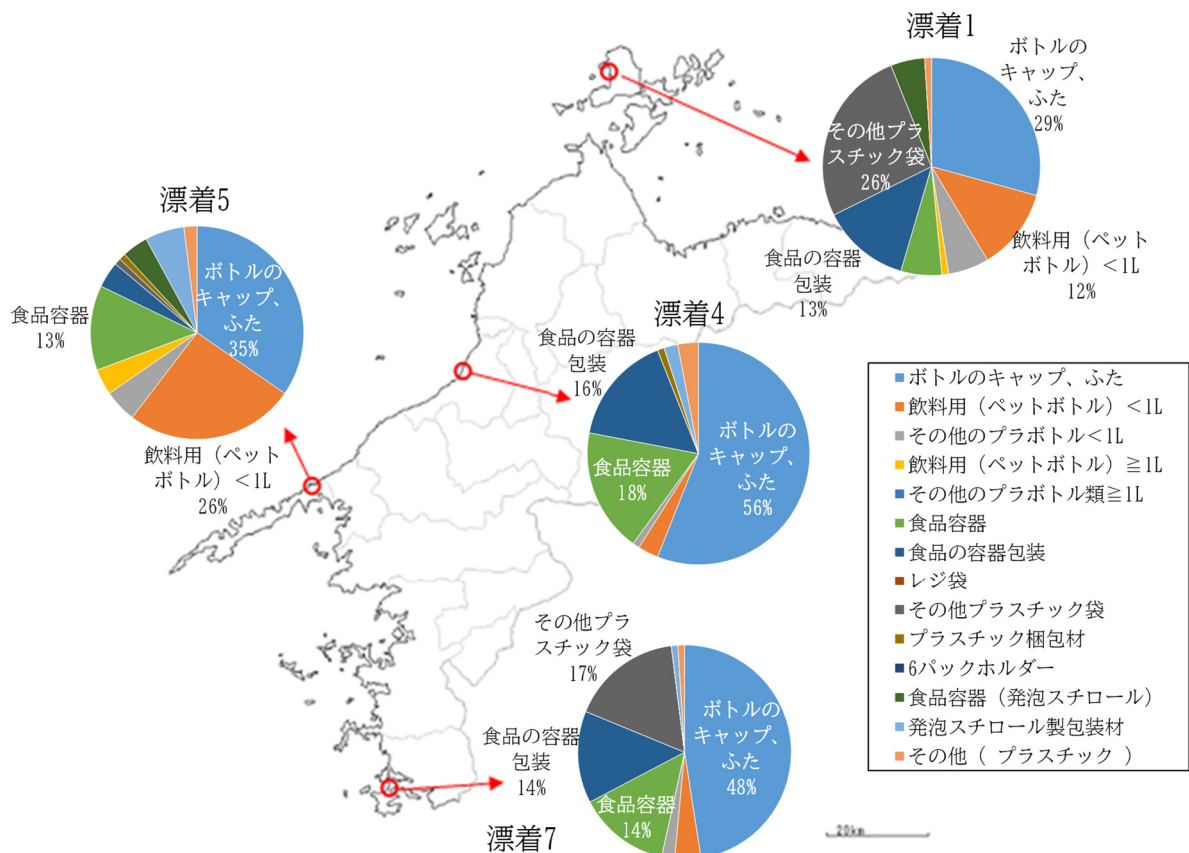
単位：個/1000m²

	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7
ボトルのキャップ、ふた	96 (29)	147 (56)	146 (35)	779 (48)
飲料用(ペットボトル)<1L	42 (12)	8 (3)	107 (26)	58 (4)
その他のプラボトル<1L	22 (6)	3 (1)	20 (5)	36 (2)
飲料用(ペットボトル)≥1L	5 (1)	—	15 (4)	1 (0)
その他のプラボトル類≥1L	—	—	—	1 (0)
食品容器	20 (6)	47 (18)	53 (13)	226 (14)
食品の容器包装	45 (13)	41 (16)	16 (4)	218 (14)
レジ袋	—	—	—	—
その他プラスチック袋	88 (26)	1 (0)	5 (1)	269 (17)
プラスチック梱包材	—	2 (1)	3 (1)	2 (0)
6パックホルダー	—	—	—	—
食品容器(発泡スチロール)	15 (5)	—	15 (4)	1 (0)
発泡スチロール製包装材	—	4 (2)	25 (6)	12 (1)
その他(プラスチック)	3 (1)	8 (3)	8 (2)	9 (1)
合計	336	261	413	1612

※1 ()内は割合(%)を示す。

※2 割合の0は0.5%未満を示す。

※3 各地点の10%以上を占める上位2種を**太字**で示し、最上位は下線を引いた。



※10%以上を占めるものは項目名と割合を記載した。

図 3-1-9 漂着ごみの「容器包装」の内訳(個数)

d) 「その他」の内訳(個数)

個数における「その他」の内訳は、表 3-1-10、図 3-1-10 に示すとおりである。

「その他」としては、「シートや袋の破片」、「硬質プラスチック破片」、「ウレタン」、「発泡スチロールの破片」が該当するが、「ウレタン」以外は個数をカウントしないため、ウレタンが確認されなかった漂着 4 を除き、いずれの地点も 100%「ウレタン」という結果となっている。

表 3-1-10 漂着ごみの「その他」の個数(1000m²あたり)と割合

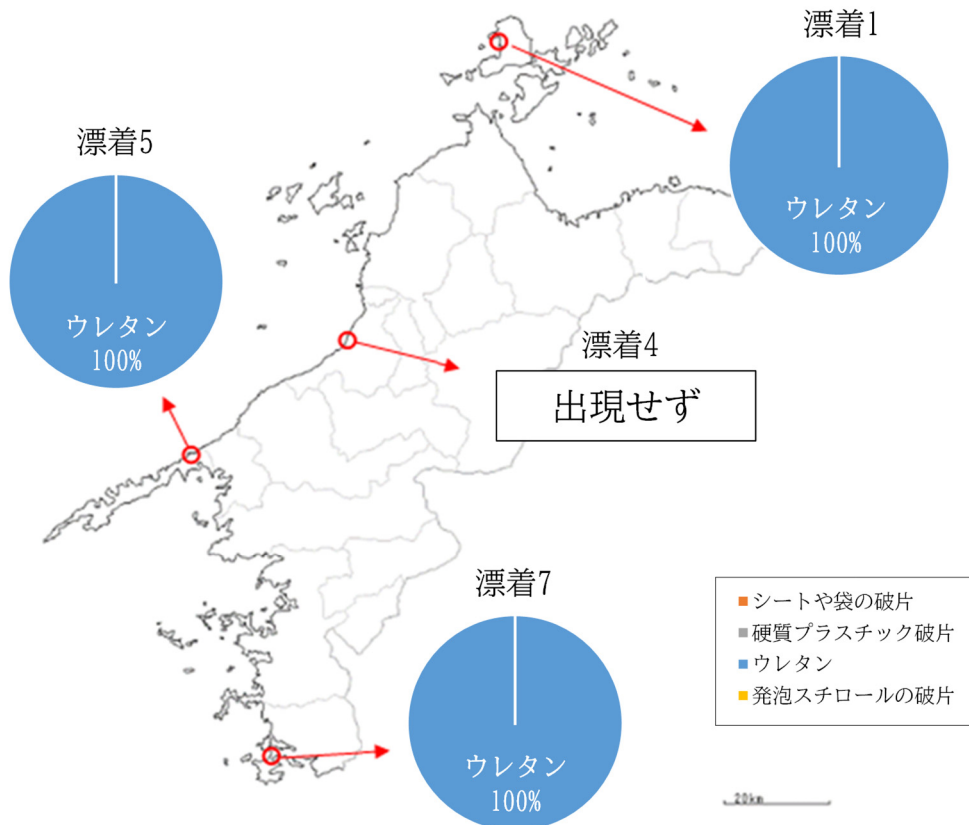
単位：個/1000m²

	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7
シートや袋の破片				
硬質プラスチック破片				
ウレタン	25 (100)	—	2 (100)	20 (100)
発泡スチロールの破片				
合計	25	0	2	20

※1 ()内は割合(%)を示す。

※2 割合の0は0.5%未満を示す。

※3 各地点の10%以上を占める上位2種を**太字**で示し、最上位は下線を引いた。



※1 10%以上を占めるものは項目名と割合を記載した。

※2 破片状のものは含まれていない。

図 3-1-10 漂着ごみの「その他」の内訳(個数)

2) プラ分類別の割合(重量)

重量における漂着ごみ(プラスチック、発泡スチロール)のプラ分類別の割合は、表3-1-11、図3-1-11に示すとおりである。

いずれの地点も「海域由来」の割合が最も高く、52～81%であった。次いで、漂着1(大三島大見地区海岸)及び漂着5(伊方越鯛ノ浦海岸)では、「容器包装」がそれぞれ21%、26%であり、漂着4(高野川海岸)及び漂着7(船越海岸)では、「その他」がそれぞれ32%、11%であった

表 3-1-11 漂着ごみのプラ分類別重量(1000m²あたり)と割合

単位：kg/1000m²

プラ分類	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7
海域由来	14.95 (72)	15.17 (54)	13.22 (52)	144.34 (81)
製品	0.82 (4)	2.41 (9)	0.87 (3)	6.16 (3)
容器包装	4.34 (21)	1.41 (5)	6.71 (26)	9.83 (5)
その他	0.52 (3)	8.89 (32)	4.61 (18)	18.97 (11)
合計	20.64	27.87	25.41	179.29

※1 ()内は割合(%)を示す。

※2 割合の0は0.5%未満を示す。

※3 各地点の10%以上を占める上位2種を太字で示し、最上位は下線を引いた。

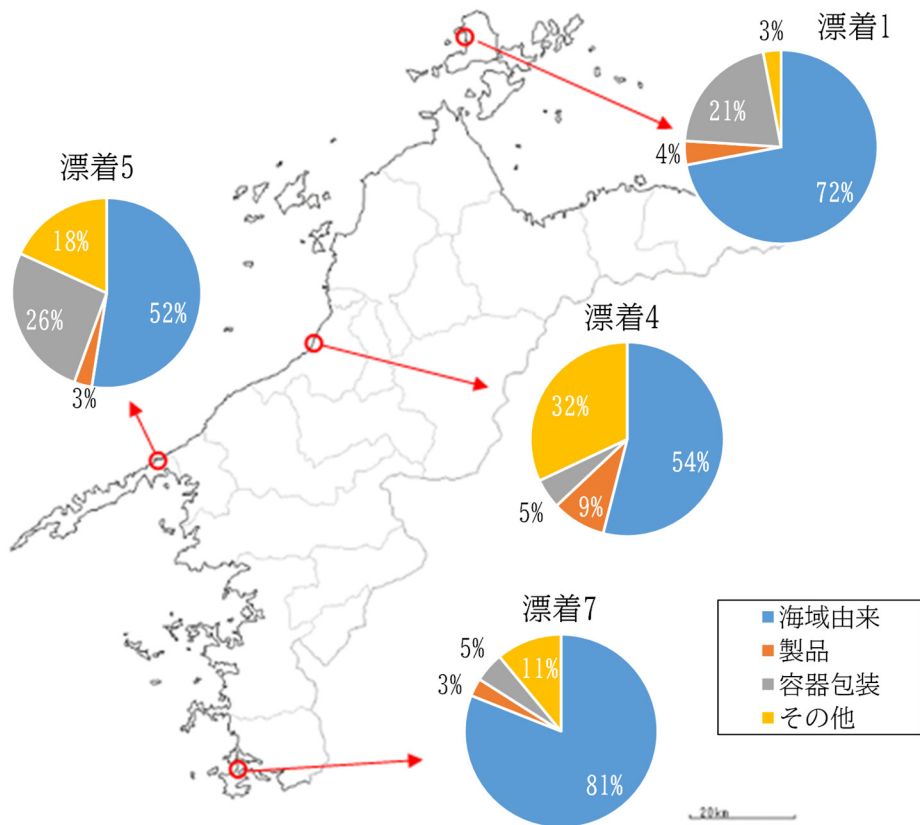


図 3-1-11 漂着ごみのプラ分類別の割合(重量)

a) 「海域由来」の内訳(重量)

重量における「海域由来」の内訳は、表 3-1-12、図 3-1-12 に示すとおりである。

漂着 1 では「発泡スチロール製フロート・浮子(ブイ)」の割合が 85%と最も高く、次いで「カキ養殖用パイプ(長さ10~20cm)」及び「ロープ、ひも(漁具)」が6%であった。漂着 4 及び漂着 7 では、「ロープ、ひも(漁具)」の割合がそれぞれ 81%、55%と最も高く、次いで、漂着 4 では「カキ養殖用パイプ(長さ10~20cm)」が15%であり、漂着 7 では「浮子(ブイ)」が19%であった。漂着 5 では「カキ養殖用パイプ(長さ10~20cm)」の割合が70%と最も高く、次いで「発泡スチロール製フロート・浮子(ブイ)」が12%であった。

表 3-1-12 漂着ごみの「海域由来」の重量(1000m²あたり)と割合

単位: kg/1000m²

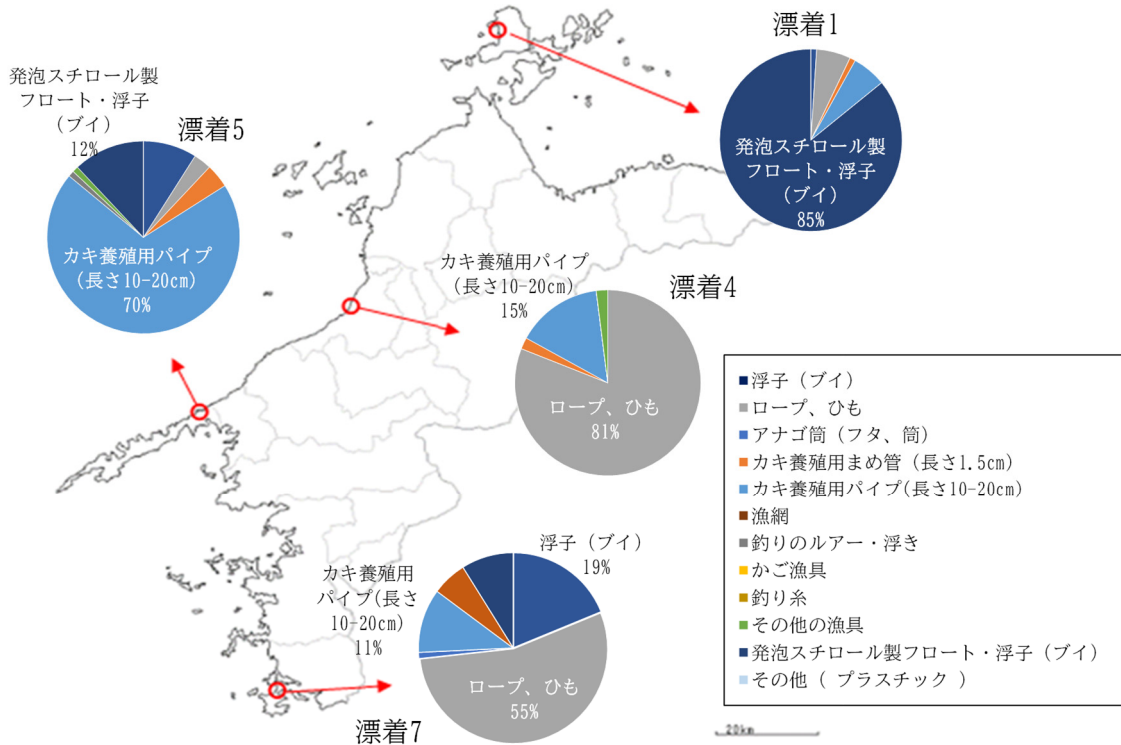
	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7
浮子(ブイ)	0.11 (1)	0.02 (0)	1.14 (9)	26.82 (19)
ロープ、ひも	0.87 (6)	12.23 (81)	0.36 (3)	79.60 (55)
アナゴ筒(フタ、筒)	—	—	0.01 (0)	0.81 (1)
カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)	0.22 (1)	0.28 (2)	0.56 (4)	0.35 (0)
カキ養殖用パイプ(長さ10~20cm)	0.84 (6)	2.26 (15)	9.31 (70)	15.16 (11)
漁網	—	0.00 (0)	—	8.51 (6)
釣りのルアー・浮き	—	0.06 (0)	0.11 (1)	0.11 (0)
かご漁具	—	—	—	—
釣り糸	0.03 (0)	0.01 (0)	0.00 (0)	—
その他の漁具	0.04 (0)	0.28 (2)	0.11 (1)	0.31 (0)
発泡スチロール製フロート・浮子(ブイ)	12.78 (85)	—	1.56 (12)	12.62 (9)
その他(プラスチック)	0.07 (0)	0.02 (0)	0.05 (0)	0.05 (0)
合計	14.95	15.17	13.22	144.34

※1 ()内は割合(%)を示す。

※2 割合の0は0.5%未満を示す。

※3 重量0.00は0.005kg/1000m²未満を示す。

※4 各地点の10%以上を占める上位2種を**太字**で示し、最上位は**下線**を引いた。



※10%以上を占めるものは項目名と割合を記載した。

図 3-1-12 漂着ごみの「海域由来」の内訳(重量)

b) 「製品」の内訳(重量)

重量における「製品」の内訳は、表3-1-13、図3-1-13に示すとおりである。

いずれの地点とも「その他(プラスチック)」の割合が最も高く、65~87%であった。次いで、漂着1では「ライター」が15%、漂着4及び漂着5では「生活雑貨(歯ブラシ等)」がそれぞれ7%、14%、漂着7では「テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)」が12%であった。

「その他(プラスチック)」について、漂着1では「パイプ」及び「ロープ、網(漁具以外)」、漂着4及び漂着7では「パイプ」、漂着5では「ロープ、網(漁具以外)」の割合が高かった。

表3-1-13 漂着ごみの「製品」の重量(1000m²あたり)と割合

	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7
ストロー	0.01 (1)	0.03 (1)	0.01 (1)	0.05 (1)
マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	—	—	0.00 (0)	0.02 (0)
コップ、食器	—	—	—	—
ライター	0.12 (15)	0.05 (2)	0.10 (11)	0.35 (6)
シリンジ、注射器	—	—	—	—
テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	0.02 (3)	0.03 (1)	0.01 (2)	0.76 (12)
たばこ吸殻(フィルター)	0.01 (1)	0.00 (0)	—	—
生活雑貨(歯ブラシ等)	0.11 (13)	0.16 (7)	0.13 (14)	0.24 (4)
花火	—	0.00 (0)	—	—
玩具	0.01 (1)	0.00 (0)	0.04 (4)	0.44 (7)
苗木ポット	0.01 (2)	0.03 (1)	0.01 (2)	0.22 (4)
コップ、食器(発泡スチロール)	—	—	—	—
その他(プラスチック)	0.54 (65)	2.10 (87)	0.57 (65)	4.08 (66)
合計	0.82	2.41	0.87	6.16

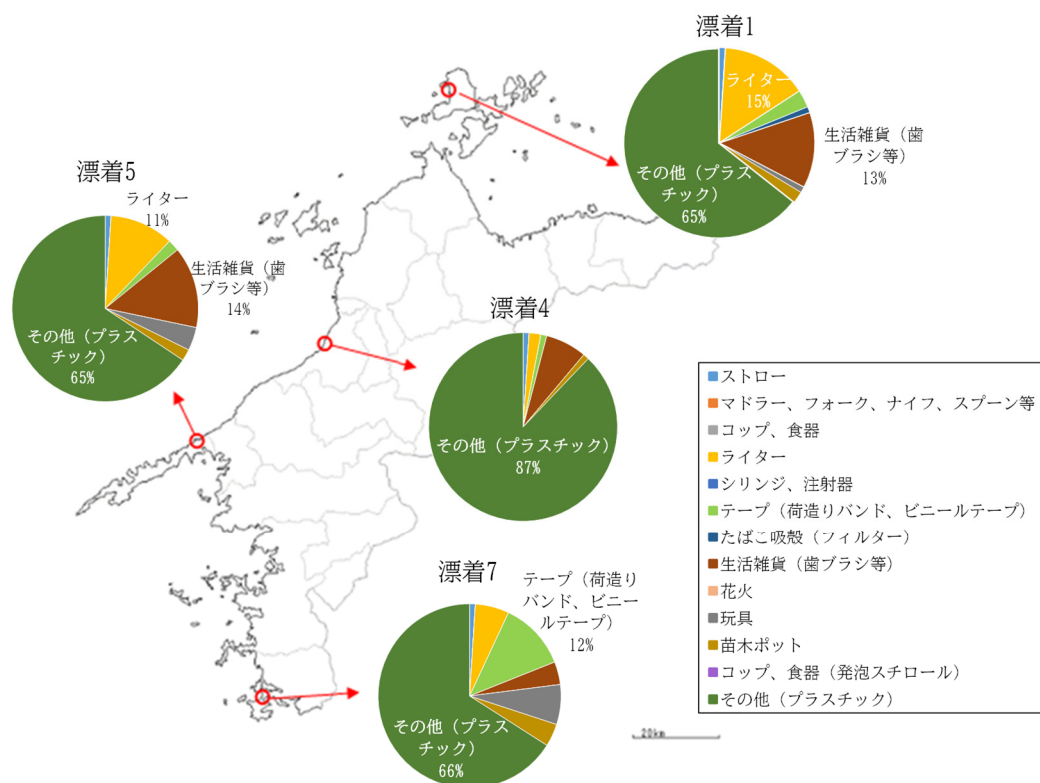
単位: kg/1000m²

※1 ()内は割合(%)を示す。

※2 割合の0は0.5%未満を示す。

※3 重量0.00は0.005kg/1000m²未満を示す。

※4 各地点の10%以上を占める上位2種を**太字**で示し、最上位は下線を引いた。



※10%以上を占めるものは項目名と割合を記載した。

図3-1-13 漂着ごみの「製品」の内訳(重量)

c) 「容器包装」の内訳(重量)

重量における「容器包装」の内訳は、表 3-1-14、図 3-1-14 に示すとおりである。

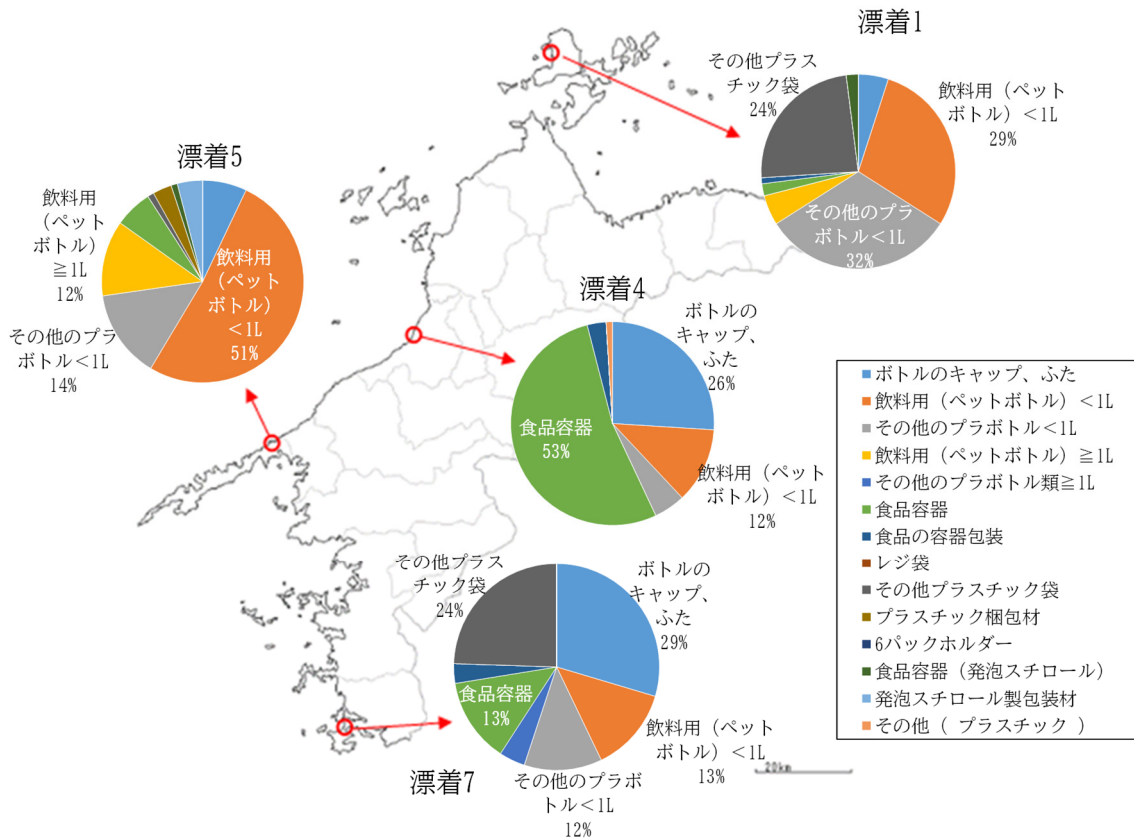
漂着 1 では「その他のプラボトル<1L」の割合が 32%と最も高く、次いで「飲料用(ペットボトル)<1L」が 29%であった。漂着 4 では「食品容器」の割合が 53%と最も高く、次いで「ボトルのキャップ、ふた」が 26%であった。漂着 5 では「飲料用(ペットボトル)<1L」の割合が 51%と最も高く、次いで「その他のプラボトル類<1L」が 14%であった。漂着 7 では「ボトルのキャップ、ふた」の割合が 29%と最も高く、次いで「その他プラスチック袋」が 24%であった。

表 3-1-14 漂着ごみの「容器包装」の重量(1000m²あたり)と割合

単位：kg/1000m²

	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7
ボトルのキャップ、ふた	0.24 (5)	0.36 (26)	0.49 (7)	2.84 (29)
飲料用(ペットボトル)<1L	1.24 (29)	0.17 (12)	3.45 (51)	1.25 (13)
その他のプラボトル<1L	1.39 (32)	0.07 (5)	0.92 (14)	1.20 (12)
飲料用(ペットボトル)≥1L	0.23 (5)	—	0.78 (12)	0.03 (0)
その他のプラボトル類≥1L	—	—	—	0.42 (4)
食品容器	0.10 (2)	0.74 (53)	0.43 (6)	1.31 (13)
食品の容器包装	0.04 (1)	0.05 (3)	0.02 (0)	0.33 (3)
レジ袋	—	—	—	—
その他プラスチック袋	1.03 (24)	0.01 (0)	0.07 (1)	2.40 (24)
プラスチック梱包材	—	0.00 (0)	0.18 (3)	0.00 (0)
6バックホルダー	—	—	—	—
食品容器(発泡スチロール)	0.07 (2)	—	0.06 (1)	0.01 (0)
発泡スチロール製包装材	—	0.00 (0)	0.28 (4)	0.01 (0)
その他(プラスチック)	0.00 (0)	0.01 (1)	0.02 (0)	0.03 (0)
合計	4.34	1.41	6.71	9.83

※1 ()内は割合(%)を示す。
 ※2 割合の0は0.5%未満を示す。
 ※3 重量0.00は0.005kg/1000m²未満を示す。
 ※4 各地点の10%以上を占める上位2種を**太字**で示し、最上位は下線を引いた。



※10%以上を占めるものは項目名と割合を記載した。

図 3-1-14 漂着ごみの「容器包装」の内訳(重量)

d) 「その他」の内訳(重量)

重量における「その他」の内訳は、表 3-1-15、図 3-1-15 に示すとおりである。

いずれの地点も「硬質プラスチック破片」の割合が最も高く、84%~97%を占めていた。次いで、漂着 1 では「ウレタン」が 10%、漂着 5 では「発泡スチロールの破片」が 15%、漂着 7 では「シートや袋の破片」が 13%であった。漂着 4 では、「硬質プラスチック破片」の他は、「製品シートや袋の破片」及び「発泡スチロールの破片」がわずかに確認されただけであった。

表 3-1-15 漂着ごみの「その他」の重量(1000m²あたり)と割合

単位: kg/1000m²

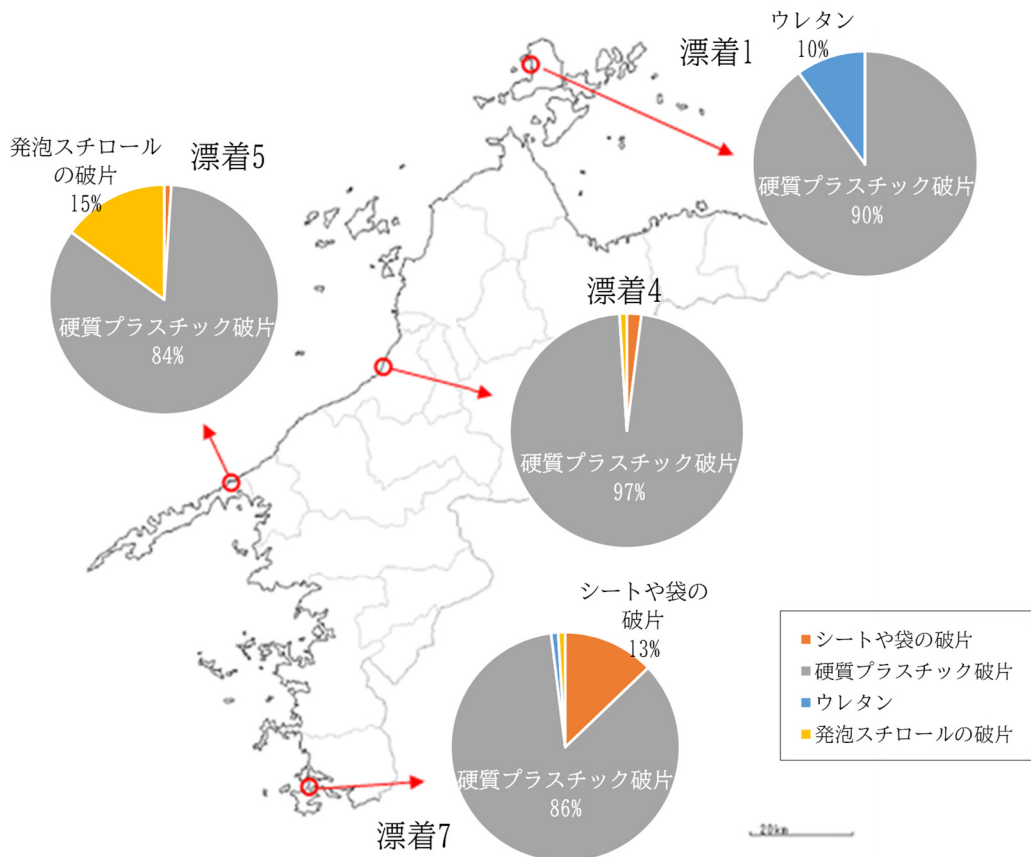
	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7
シートや袋の破片	—	0.16 (2)	0.04 (1)	2.40 (13)
硬質プラスチック破片	0.47 (90)	8.63 (97)	3.87 (84)	16.25 (86)
ウレタン	0.05 (10)	—	0.01 (0)	0.11 (1)
発泡スチロールの破片	0.00 (0)	0.10 (1)	0.68 (15)	0.22 (1)
合計	0.52	8.89	4.61	18.97

※1 ()内は割合(%)を示す。

※2 割合の0は0.5%未満を示す。

※3 重量0.00は0.005kg/1000m²未満を示す。

※4 各地点の10%以上を占める上位2種を太字で示し、最上位は下線を引いた。



※10%以上を占めるものは項目名と割合を記載した。

図 3-1-15 漂着ごみの「その他」の内訳(重量)

3) プラ分類別の割合(容積)

容積における漂着ごみ(プラスチック、発泡スチロール)のプラ分類別の割合は、表3-1-16、図3-1-16に示すとおりである。

漂着1(大三島大見地区海岸)及び漂着7(船越海岸)では、「海域由来」の割合がそれぞれ73%、63%と最も高く、次いで、漂着1では「容器包装」が15%、漂着7では「その他」が22%であった。漂着4(高野川海岸)では、「その他」の割合が68%と最も高く、次いで「海域由来」が20%であった。漂着5(伊方越鯛ノ浦海岸)では、「海域由来」及び「容器包装」がそれぞれ38%と最も高く、次いで「その他」が19%であった。

表3-1-16 漂着ごみのプラ分類別容積(1000m²あたり)と割合

単位：L/1000m²

プラ分類	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7
海域由来	910.10 (73)	156.83 (20)	292.37 (38)	2341.87 (63)
製品	24.09 (2)	56.72 (7)	27.16 (4)	184.89 (5)
容器包装	183.88 (15)	34.46 (4)	292.35 (38)	353.20 (10)
その他	129.34 (10)	530.77 (68)	148.19 (19)	822.11 (22)
合計	1247.41	778.78	760.07	3702.07

※1 ()内は割合(%)を示す。
 ※2 割合の0は0.5%未満を示す。
 ※3 各地点の10%以上を占める上位2種を太字で示し、最上位は下線を引いた。

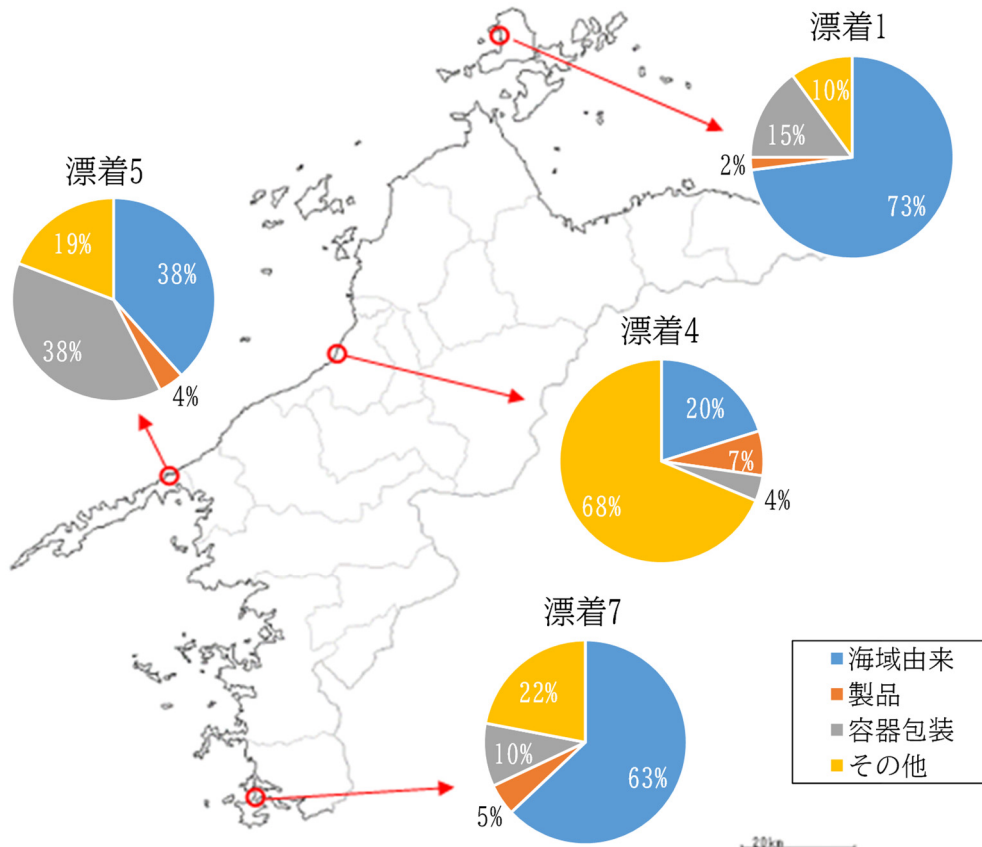


図3-1-16 漂着ごみのプラ分類別の割合(容積)

a) 「海域由来」の内訳(容積)

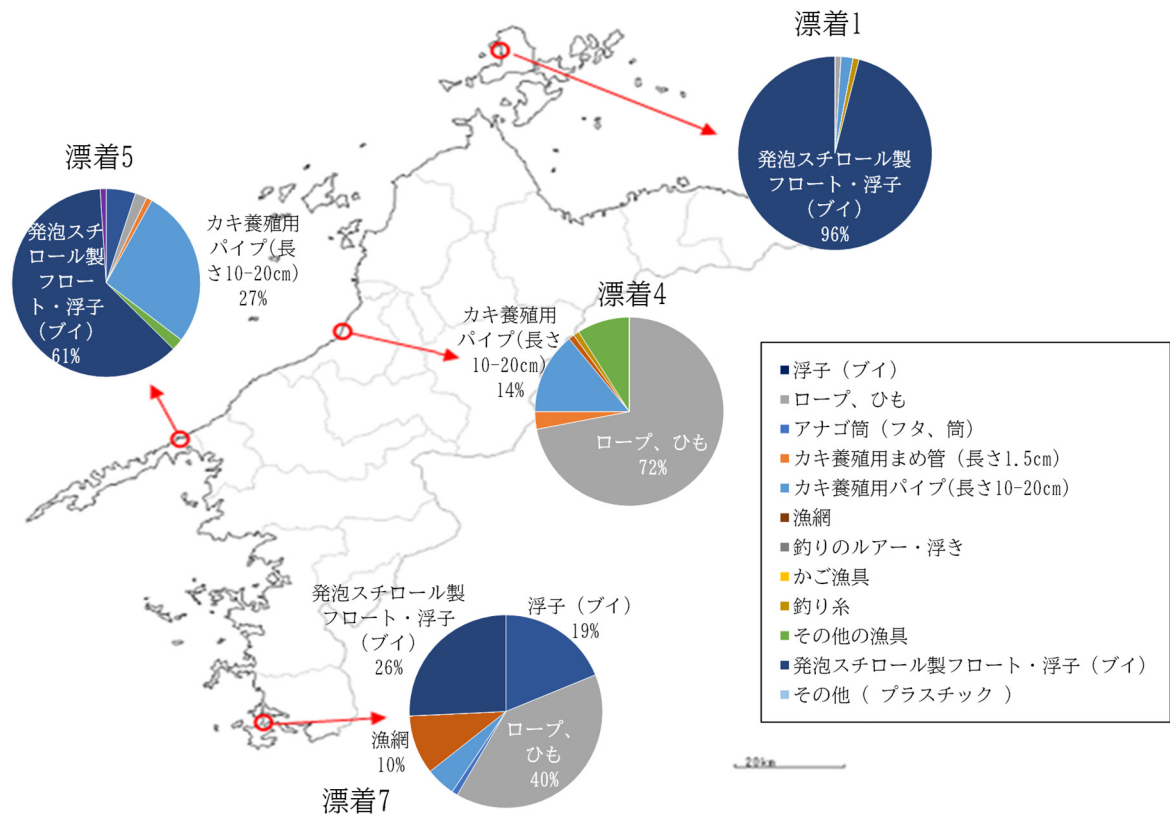
容積における「海域由来」の内訳は、表 3-1-17、図 3-1-17 に示すとおりである。

漂着 1 及び漂着 5 では「発泡スチロール製フロート・浮子(ブイ)」の割合がそれぞれ 96%、61%と最も高かった。漂着 1 では、それ以外の項目はわずかに確認されただけであり、漂着 5 では次いで「カキ養殖用パイプ(長さ 10~20cm)」が 27%であった。漂着 4 及び漂着 7 では「ロープ、ひも(漁具)」の割合がそれぞれ 72%、40%と最も高く、次いで漂着 4 では「カキ養殖用パイプ(長さ 10~20 cm)」が 14%であり、漂着 7 では「発泡スチロール製フロート・浮子(ブイ)」が 26%であった。

表 3-1-17 漂着ごみの「海域由来」の容積(1000m²あたり)と割合

	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7
浮子(ブイ)	1.39 (0)	0.15 (0)	15.36 (5)	439.64 (19)
ロープ、ひも	9.11 (1)	112.70 (72)	6.76 (2)	939.02 (40)
アナゴ筒(フタ、筒)	—	—	0.92 (0)	14.68 (1)
カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)	3.49 (0)	4.27 (3)	3.94 (1)	4.32 (0)
カキ養殖用パイプ(長さ10-20cm)	18.59 (2)	22.64 (14)	77.72 (27)	109.44 (5)
漁網	—	1.75 (1)	—	224.89 (10)
釣りのルアー・浮き	—	0.55 (0)	1.42 (0)	2.44 (0)
かご漁具	—	—	—	—
釣り糸	4.65 (1)	0.93 (1)	0.05 (0)	—
その他の漁具	0.12 (0)	13.38 (9)	5.69 (2)	6.91 (0)
発泡スチロール製フロート・浮子(ブイ)	869.66 (96)	—	177.67 (61)	598.89 (26)
その他(プラスチック)	3.10 (0)	0.45 (0)	2.84 (1)	1.64 (0)
合計	910.10	156.83	292.37	2341.87

※1 ()内は割合(%)を示す。
 ※2 割合の0は0.5%未満を示す。
 ※3 各地点の10%以上を占める上位2種を**太字**で示し、最上位は下線を引いた。



※10%以上を占めるものは項目名と割合を記載した。

図 3-1-17 漂着ごみの「海域由来」の内訳(容積)

b) 「製品」の内訳(容積)

容積における「製品」の内訳は、表 3-1-18、図 3-1-18 に示すとおりである。

いずれの地点も「その他(プラスチック)」の割合が最も高く、漂着1、漂着4、漂着5、漂着7の順にそれぞれ、52%、70%、49%、48%であり、次いで「テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)」の割合が高く、それぞれ、33%、12%、17%、28%であった。

「その他(プラスチック)」について、漂着1及び漂着4では「パイプ」、漂着5では「ロープ、網(漁具以外)」、漂着7では「布製品」の割合が高かった。

表 3-1-18 漂着ごみの「製品」の容積(1000m²あたり)と割合

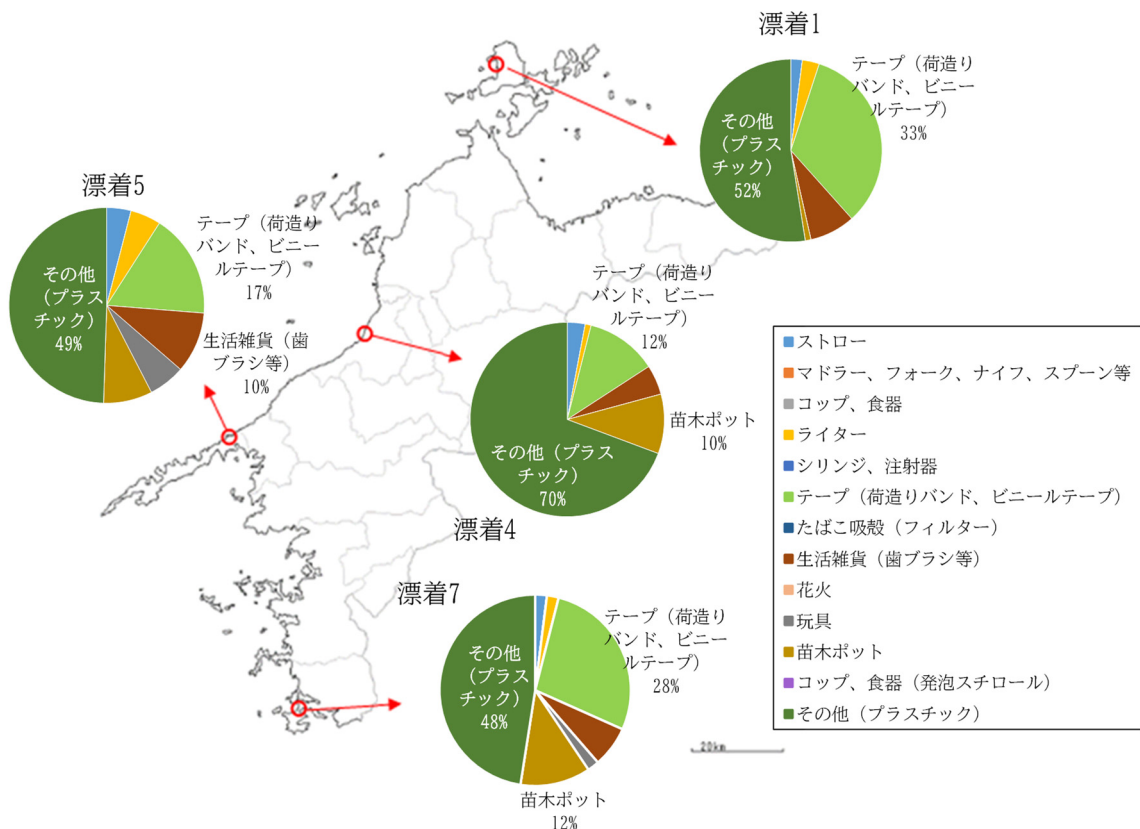
単位：L/1000m²

	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7
ストロー	0.28 (2)	1.62 (3)	0.98 (4)	3.17 (2)
マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	—	—	0.05 (0)	0.70 (0)
コップ、食器	—	—	—	—
ライター	0.54 (3)	0.53 (1)	1.42 (5)	2.76 (2)
シリンジ、注射器	—	—	—	—
テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	6.20 (33)	6.83 (12)	4.50 (17)	50.09 (28)
たばこ吸殻(フィルター)	0.03 (0)	0.02 (0)	—	—
生活雑貨(歯ブラシ等)	1.55 (8)	2.59 (5)	2.82 (10)	11.78 (7)
花火	—	0.09 (0)	—	—
玩具	0.04 (0)	0.01 (0)	1.71 (6)	3.27 (2)
苗木ポット	0.19 (1)	5.58 (10)	2.28 (8)	21.98 (12)
コップ、食器(発泡スチロール)	—	—	—	—
その他(プラスチック)	9.68 (52)	39.45 (70)	13.40 (49)	86.88 (48)
合計	18.51	56.72	27.16	180.63

※1 ()内は割合(%)を示す。

※2 割合の0は0.5%未満を示す。

※3 各地点の10%以上を占める上位2種を太字で示し、最上位は下線を引いた。



※10%以上を占めるものは項目名と割合を記載した。

図 3-1-18 漂着ごみの「製品」の内訳(容積)

c) 「容器包装」の内訳(容積)

容積における「容器包装」の内訳は、表 3-1-19、図 3-1-19 に示すとおりである。

漂着 1 及び漂着 5 では「飲料用(ペットボトル)<1L」の割合がそれぞれ 40%、48%と最も高く、次いで両地点ともに「飲料用(ペットボトル)≥1L」が 15%であった。漂着 4 では「食品容器」の割合が 38%と最も高く、次いで「飲料用(ペットボトル)<1L」が 20%であった。漂着 7 では「その他プラスチック袋」の割合が 34%と最も高く、次いで「その他のプラボトル類<1L」が 17%であった。

表 3-1-19 漂着ごみの「容器包装」の容積(1000m²あたり)と割合

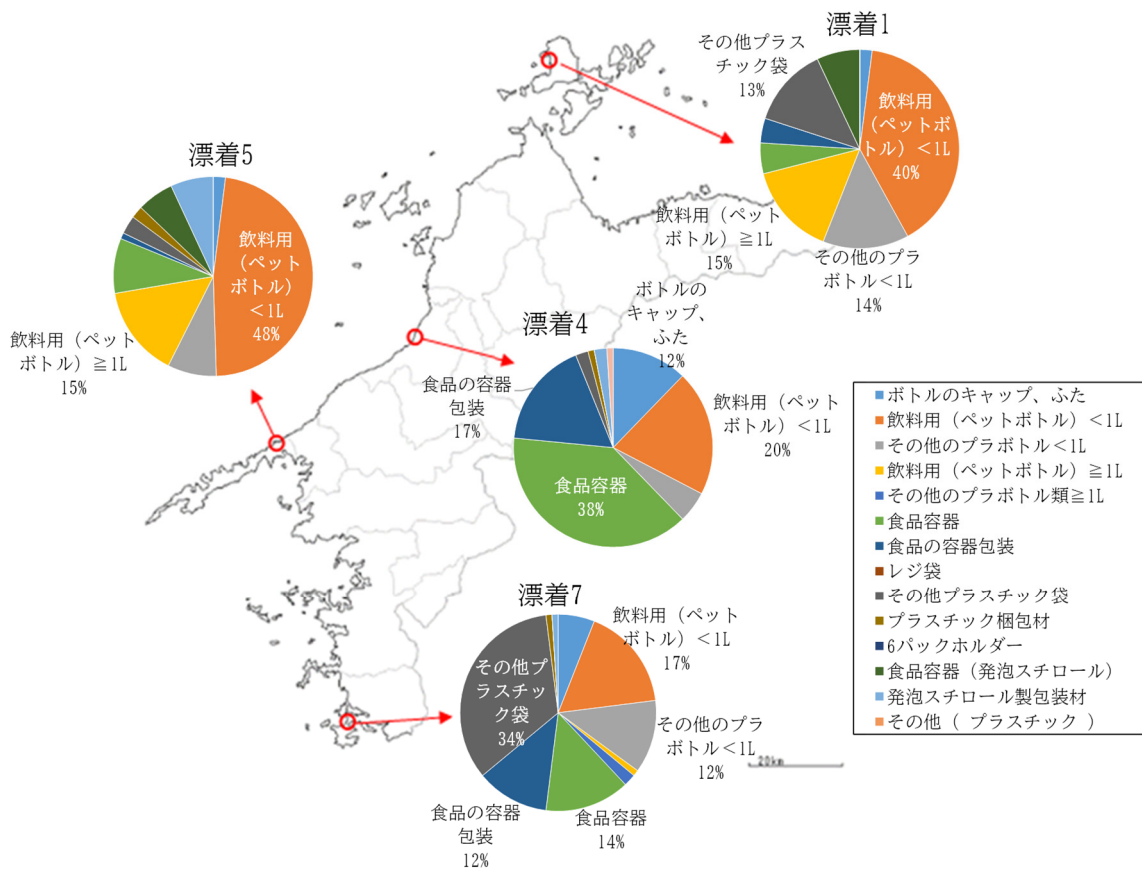
単位：L/1000m²

	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7
ボトルのキャップ、ふた	3.87 (2)	4.27 (12)	4.50 (2)	21.98 (6)
飲料用(ペットボトル)<1L	74.36 (40)	6.83 (20)	140.77 (48)	59.35 (17)
その他のプラボトル<1L	25.05 (14)	1.81 (5)	22.52 (8)	41.45 (12)
飲料用(ペットボトル)≥1L	27.89 (15)	—	45.05 (15)	2.73 (1)
その他のプラボトル類≥1L	—	—	—	8.08 (2)
食品容器	9.30 (5)	13.25 (38)	25.80 (9)	50.56 (14)
食品の容器包装	6.51 (4)	5.98 (17)	1.66 (1)	41.87 (12)
レジ袋	—	—	—	—
その他プラスチック袋	23.84 (13)	0.58 (2)	8.00 (3)	119.94 (34)
プラスチック梱包材	—	0.49 (1)	5.64 (2)	1.83 (1)
6パックホルダー	—	—	—	—
食品容器(発泡スチロール)	13.01 (7)	—	16.19 (6)	0.98 (0)
発泡スチロール製包装材	—	0.81 (2)	21.50 (7)	3.49 (1)
その他(プラスチック)	0.04 (0)	0.43 (1)	0.71 (0)	0.93 (0)
合計	183.88	34.46	292.35	353.20

※1 ()内は割合(%)を示す。

※2 割合の0は0.5%未満を示す。

※3 各地点の10%以上を占める上位2種を太字で示し、最上位は下線を引いた。



※10%以上を占めるものは項目名と割合を記載した。

図 3-1-19 漂着ごみの「容器包装」の内訳(容積)

d) 「その他」の内訳(容積)

容積における「その他」の内訳は、表 3-1-20、図 3-1-20 に示すとおりである。

漂着 1 では「発泡スチロールの破片」の割合が 93%と最も高く、漂着 4 では「硬質プラスチック破片」の割合が 98%と最も高く、両地点ともにそれ以外の項目はわずかに確認されただけであった。漂着 5 では「硬質プラスチック破片」の割合が 53%、次いで「発泡スチロールの破片」が 46%と概ね同程度で高かった。漂着 7 では「硬質プラスチック破片」の割合が 82%と最も高く、次いで「製品シートや袋の破片」が 15%であった。

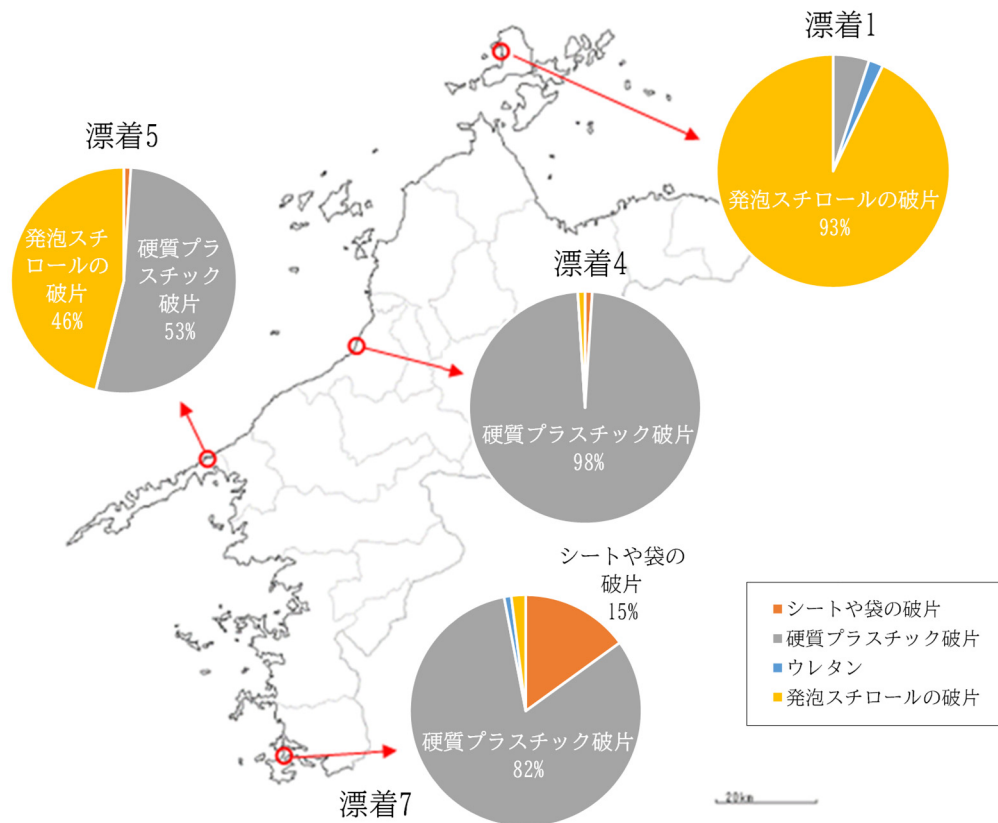
表 3-1-20 漂着ごみの「その他」の容積(1000m²あたり)と割合

	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7
シートや袋の破片	—	6.83 (1)	1.81 (1)	120.38 (15)
硬質プラスチック破片	6.51 (5)	519.09 (98)	78.21 (53)	672.94 (82)
ウレタン	2.83 (2)	—	0.65 (0)	9.16 (1)
発泡スチロールの破片	120.01 (93)	4.85 (1)	67.53 (46)	19.63 (2)
合計	129.34	530.77	148.19	822.11

※1 ()内は割合(%)を示す。

※2 割合の0は0.5%未満を示す。

※3 各地点の10%以上を占める上位2種を**太字**で示し、最上位は**下線**を引いた。



※10%以上を占めるものは項目名と割合を記載した。

図 3-1-20 漂着ごみの「その他」の内訳(容積)

(3) ペットボトル、キャップ、浮子の言語標記等について

回収した漂着ごみのうち、「ペットボトル」、「ボトルのキャップ」、「浮子」について、ガイドラインに従って、言語の特定を行った。言語の特定結果は、表 3-1-21、図 3-1-21 に示すとおりである。

1) ペットボトル

ペットボトルについては、合計 262 個回収し、製造国については、「日本」が 146 個(56%)であり、「日本」以外が 18 個(7%)、「不明」が 98 個(37%)であった。「日本」以外の内訳は「中国」が 9 個、「台湾」が 3 個、「中国・台湾」が 4 個、「韓国」が 2 個であった。

調査地点別にみると、「日本」以外のペットボトルは、漂着 7(船越海岸)で 10 個、漂着 5(伊方越鯛ノ浦海岸)で 7 個、漂着 1(大三島大見地区海岸)で 1 個確認され、漂着 4(高野川海岸)では、確認されなかった。

2) ボトルのキャップ

ボトルのキャップについては合計 624 個回収し、製造国については、「日本」が 255 個(41%)であり、「日本」以外が 40 個(6%)、「不明」が 329 個(53%)であった。「日本」以外の内訳は「中国・台湾」が 29 個、「韓国」が 3 個、「英語」が 8 個であった。

調査地点別にみると、「日本」以外のキャップは、漂着 7 で 36 個、漂着 5 で 4 個確認され、漂着 1 と漂着 4 では確認されなかった。

3) 浮子

浮子については、合計 70 個回収し、製造国については、「日本」が 17 個(24%)であり、「日本」以外が 8 個(11%)、「不明」が 45 個(64%)であった。「日本」以外の内訳は全て「中国・台湾」であった。

調査地点別にみると、「日本」以外の浮子は、漂着 7 で 8 個確認され、漂着 1、漂着 4、漂着 5 では確認されなかった。

表 3-1-21 言語標記による区分

品目：ペットボトル

単位：個数

製造国	区別方法	調査地点				
		漂着1	漂着4	漂着5	漂着7	合計
日本	バーコード (49 or 45)	9 (33)	1 (14)	44 (25)	14 (25)	68 (26)
	言語標記 (漢字, ひらがな, カタカナ)	11 (41)	1 (14)	60 (35)	6 (11)	78 (30)
	小計 (日本)	20 (74)	2 (29)	104 (60)	20 (36)	146 (56)
中国	バーコード (69)	1 (4)		4 (2)	4 (7)	9 (3)
台湾	バーコード (471)				3 (5)	3 (1)
中国・台湾	言語標記 (漢字)			1 (1)	3 (5)	4 (2)
韓国	バーコード (880)			1 (1)		1 (0)
	言語標記 (ハングル)			1 (1)		1 (0)
	小計	0	0	2 (1)	0	2 (1)
ロシア	バーコード (46)					
	言語標記 (ロシア語)					
	小計	0	0	0	0	0
シンガポール	バーコード (888)					
ベトナム	バーコード (893)					
	小計 (日本以外)	1 (4)	0	7 (4)	10 (18)	18 (7)
	小計 (製造国判明)	21 (78)	2 (29)	111 (64)	30 (55)	164 (63)
不明	不明 (バーコード・文字読取れず)	6 (22)	5 (71)	62 (36)	25 (45)	98 (37)
	(表記言語) 何語かわからず					
	小計 (不明)	6 (22)	5 (71)	62 (36)	25 (45)	98 (37)
	合計	27 (100)	7 (100)	173 (100)	55 (100)	262 (100)

※1 ()内は割合(%)を示す。

※2 割合の0は0.5%未満を示す。

※3 小計及び合計の0は確認されなかったことを示し、割合は未記載とした。

品目：ボトルのキャップ

単位：個数

製造国	区別方法	調査地点				
		漂着1	漂着4	漂着5	漂着7	合計
日本	言語標記 (漢字, ひらがな, カタカナ)	20 (74)	41 (57)	79 (63)	115 (29)	255 (41)
	小計 (日本)	20 (74)	41 (57)	79 (63)	115 (29)	255 (41)
中国・台湾	言語標記 (漢字)			2 (2)	27 (7)	29 (5)
韓国	言語標記 (ハングル)			2 (2)	1 (0)	3 (0)
ロシア	言語標記 (ロシア語)					0
その他	(表記言語) 英語				8 (2)	8 (1)
	(表記言語) フランス					0
	小計 (日本以外)	0	0	4 (3)	36 (9)	40 (6)
	小計 (製造国判明)	20 (74)	41 (57)	83 (66)	151 (38)	295 (47)
不明	言語標記 (文字読取れず)	7 (26)	30 (42)	43 (34)	244 (61)	324 (52)
	(表記言語) 何語かわからず		1 (1)		4 (1)	5 (1)
	小計 (不明)	7 (26)	31 (43)	43 (34)	248 (62)	329 (53)
	合計	27 (100)	72 (100)	126 (100)	399 (100)	624 (100)

※1 ()内は割合(%)を示す。

※2 割合の0は0.5%未満を示す。

※3 小計及び合計の0は確認されなかったことを示し、割合は未記載とした。

品目：浮子

単位：個数

製造国	区別方法	調査地点				
		漂着1	漂着4	漂着5	漂着7	合計
日本	言語標記 (漢字, ひらがな, カタカナ)	1 (17)			16 (36)	17 (24)
	小計 (日本)	1 (17)	0	0	16 (36)	17 (24)
中国・台湾	言語標記 (漢字)				8 (18)	8 (11)
韓国	言語標記 (ハングル)					0
ロシア	言語標記 (ロシア語)					0
その他	(表記言語) 英語					0
	小計 (日本以外)	0	0	0	8 (2)	8 (11)
	小計 (製造国判明)	1 (17)	0	0	24 (55)	25 (36)
不明	言語標記 (文字読取れず)	5 (83)	2 (100)	18 (100)	20 (45)	45 (64)
	(表記言語) 何語かわからず					
	小計 (不明)	5 (83)	2 (100)	18 (100)	20 (45)	45 (64)
	合計	6 (100)	2 (100)	18 (100)	44 (100)	70 (100)

※1 ()内は割合(%)を示す。

※2 割合の0は0.5%未満を示す。

※3 小計及び合計の0は確認されなかったことを示し、割合は未記載とした。

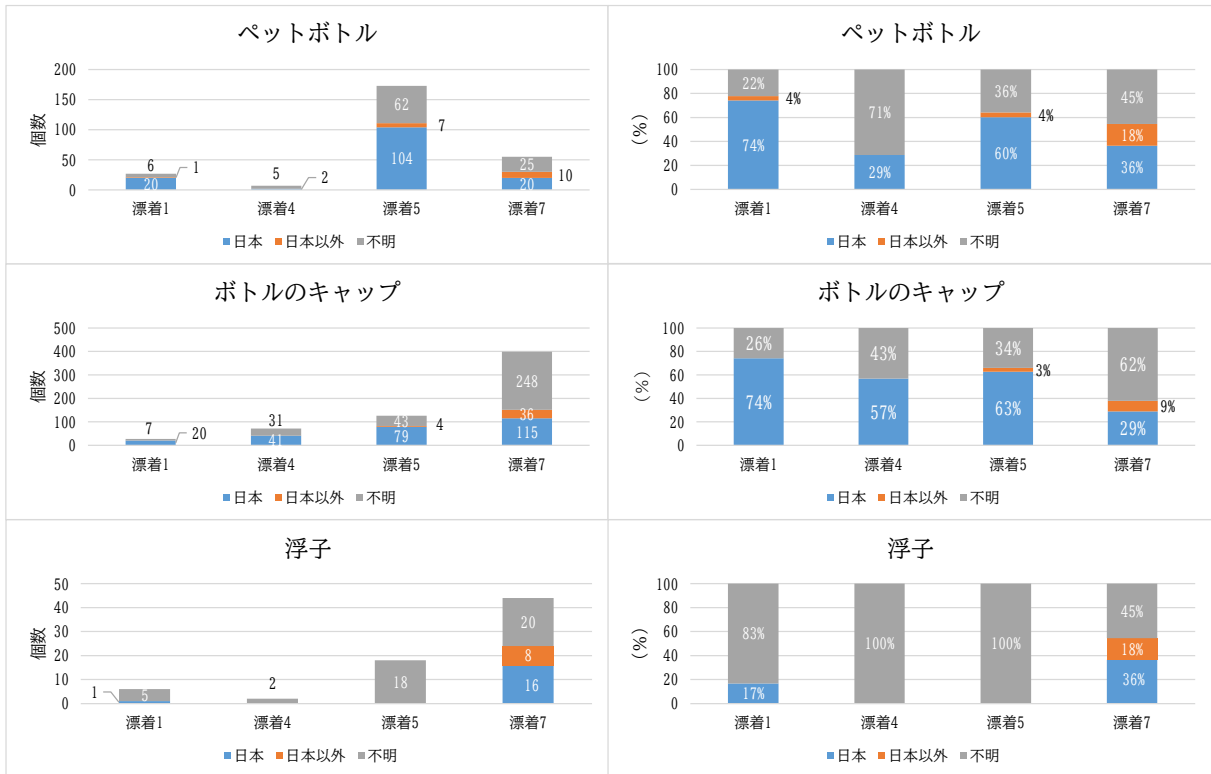


図 3-1-21 言語標記による区分



写真 3-1-1 製造国が「日本」以外の漂着ごみ

1.2. 各調査地点の特徴

(1) 漂着 1(大三島大見地区海岸)

大三島大見地区海岸では他の地点に比べて、漂着ごみの個数、容積で 2 番目に少なかった。大分類で見ると個数では「プラスチック」が、重量では「ガラス、陶器」及び「木(木材等)」が、容積では「発泡スチロール」が高い割合を占めていた。

プラ分類(プラスチック、発泡スチロール)に着目してみると、個数、重量、容積のいずれも「海域由来」が半数以上を占めており、そのうち個数では「カキ養殖用まめ管(長さ 1.5cm)」が 60%を占めており、重量及び容積では「発泡スチロール製フロート・浮子(ブイ)」が 80%以上を占めていた。

本調査地点では、黒い瓦の破片が多く、これにより「ガラス、陶器」の重量の割合が高くなったものと考えられる。また、1m を超える大きな発泡スチロール製フロートが回収されたことから、「発泡スチロール」や「発泡スチロール製フロート・浮子(ブイ)」の割合が高くなったものと考えられる。瓦については、令和 2 年度には確認されたものの、翌年の令和 3 年度には確認されていなかったため、人為的に投棄されている可能性が考えられた。

なお、海岸に降りる階段脇には、ごみ箱が置かれており、清掃作業等が行われているものと考えられる。

製造国が「日本」以外の漂着ごみについてみると、「中国」のペットボトルが 1 個確認されたのみであった。



写真 3-1-2(1) 回収ごみの状況(漂着 1)

(2) 漂着 4(高野川海岸)

高野川海岸では、4 地点のうち個数、重量、容積の全てで最も少なかった。大分類で見ると、いずれも「プラスチック」の割合が最も高かった。

プラ分類(プラスチック、発泡スチロール)に着目してみると、個数及び重量では「海域由来」が、容積では「その他」が半数以上を占めていた。個数では「カキ養殖用まめ管(長さ 1.5cm)」が最も多く、次いで多かった「カキ養殖用パイプ(長さ 10～20cm)」と合わせると 90%を占めていた。重量では「ロープ、ひも(漁具)」が 81%、容積では「硬質プラスチック破片」が 98%であり、いずれも大多数を占めていた。「ロープ、ひも(漁具)」については、曳網や係船等に使用されていたと思われる直径 8cm 程度のロープが回収されており、これにより重量に占める割合が大きくなったと考えられる。

本調査地点では、週に 1 度程度、清掃活動を行っている方がいるとの情報を入手しており(伊予市環境政策課より情報提供)、海岸への降り口には回収したと思われるゴミ袋が複数確認された。このためか、高野川海岸では、ごみは目立たない状態であった。

言語標記を確認した「ペットボトル」、「ボトルのキャップ」、「浮子」に、製造国が「日本」以外のものは確認されなかった。



写真 3-1-2(2) 回収ごみの状況(漂着 4)

(3) 漂着 5(伊方越鯛ノ浦海岸)

伊方越鯛ノ浦海岸では、4地点のうち個数、容積では2番目に多かった。大分類で見ると、個数では「プラスチック」が、重量では「木(木材等)」が、容積では「プラスチック」及び「木(木材等)」の割合が高かった。

プラ分類(プラスチック、発泡スチロール)に着目してみると、個数及び重量では「海域由来」が半数以上を占めていた。個数では「カキ養殖用まめ管(長さ 1.5cm)」が最も多く、次いで多かった「カキ養殖用パイプ(長さ 10~20cm)」と合わせると 95%を占めていた。重量では「カキ養殖用まめ管(長さ 1.5cm)」が 70%を占めていた。容積で見ると「海域由来」及び「容器包装」がそれぞれ 38%を占めており、そのうち海域由来では「発泡スチロール製フロート・浮子(ブイ)」が、容器包装では「飲料用(ペットボトル)<1L」が半数程度を占めていた。

本調査地点では、個数、重量、容積のいずれも、「木(木材等)」が全地点中最も割合が高かった。数値データには含まれないが、流木や竹などの自然物も全地点で最も多く、人力で動かさない大型流木等も確認された。人力で動かさないものは、礫に埋まっているような状態であり、昨年度と同じものと思われるものが多かった。

製造国が「日本」以外の漂着ごみについてみると、「中国」、「中国・台湾」及び「韓国」のペットボトルが合計 7 個、ボトルキャップが合計 4 個確認された。



回収ごみ一式



カキ養殖用まめ管(長さ 1.5cm)



製造国「韓国」のボトルキャップ



自然物一式



製造国「中国」のペットボトル

写真 3-1-2(3) 回収ごみの状況(漂着 5)

(4) 漂着 7(船越海岸)

船越海岸では、漂着ごみの個数、重量、容積のいずれも全地点中最も多かった。大分類でみると、個数、重量、容積とも「プラスチック」の割合が最も高かった。

プラ分類(プラスチック、発泡スチロール)に着目してみると、個数、重量、容積のいずれも「海域由来」が半数以上を占めていた。そのうち個数では「カキ養殖用まめ管(長さ 1.5cm)」が70%近くを占めていた。また、「ロープ、ひも(漁具)」が他の地点の2倍以上の割合を占めていた。重量及び容積では「ロープ、ひも(漁具)」が半数程度を占めていた。

本調査地点では、漂着ごみの量が他の地点と比べて多いことから、破片状の漂着ごみも多く確認された。また、昨年度は確認されなかった、複数の漁具(ブイ、ロープ、漁網)が絡まって礫に埋まっている状態も確認された。調査範囲以外にも多種多様な大量のごみが漂着しており、植生部分にまで打ち上げられている状態であった。

製造国が「日本」以外の漂着ごみについてみると、「中国」、「台湾」及び「中国・台湾」で製造されたペットボトルが合計 10 個、「中国・台湾」、「韓国」及び「その他(英語)」で製造されたボトルキャップが合計 36 個、「中国・台湾」で製造された浮子が 8 個確認され、全地点中で最も多かった。



写真 3-1-2(4) 回収ごみの状況(漂着 7)